

人間関係講座（グループ）第101回 [秋]

-グループの中での人間関係の理解のために- 基礎コース

担当者	中尾 陽子（南山大学経営学部准教授） 土屋 耕治（南山大学人文学科心理人間学部講師）
概要	<p>この講座は、「体験学習」という方法を用いて、グループの中での人間関係について学んでいくものです。ラボラトリー方式の体験学習の入門講座として設定しています。1つの講座は2日間のプログラムで構成しています。</p> <p>私たちは、会社や組織、家族や仲間関係など、常にグループの中に身を置いています。「グループの中の人間関係は複雑で難しい」ということをよく聞きます。その理由の1つとして、グループで何らかの仕事や課題に取り組む場合に、話や課題の内容（コンテンツ）に夢中になり、他者の気持ちやお互いの関係（プロセス）に目が向けられず、いつの間にかお互いの思いにズレが生じることが考えられます。</p> <p>この講座は、以下の学習目標に向けて実施します。</p> <ol style="list-style-type: none">①グループの中で他者と関わる自分の特徴に気づく②「コンテンツ」と「プロセス」とは何かを理解する③グループの中での人間関係（グループプロセス）に目を向ける重要性に気づく <p>この講座では、ラボラトリー方式の体験学習を用いた実習（典型的な実習）と、グループに関する理論の小講義によって学習を深めていきます。グループの人間関係について理解を深めたい方、ラボラトリー方式の体験学習について知りたい方など、さまざまな方にお勧めです。</p> <p>【プログラムの内容（予定）】</p> <p>小講義「人間関係を体験から学ぶ」「体験学習のサイクル」「コンテンツとプロセス」 「グループプロセスとは?」「グループでの意思決定」など グループでの問題解決実習（実習「東京観光」等）とふりかえり グループでの創造的実習（実習「ブロックモデル」等）とふりかえり グループでのコンセンサス実習（実習「ボランティア」等）とふりかえり</p>
日程	2016年10月8日（土） 10:00～18:00 10月9日（日） 9:00～17:00 土日集中
定員	各42名
会場	南山大学 D棟 D51教室
受講料	11,200円（税込）
メルマガ講座報告	<p style="text-align: right;">担当講師 土屋 耕治 記</p> <p>10月8日と9日の2日間にわたって、南山大学D51教室にて『第101回人間関係講座(グループ)』が開催されました。この講座は、ラボラトリー方式の体験学習の入門講座と位置づけられており、2日間のプログラムで構成されています。中尾氏と土屋の二人で担当しました。講座は、グループの中で他者と関わる際の自分の特徴に気づくことなどが目標に掲げられていました。</p> <p>いくつかの小グループでの実習の間に、ラボラトリー方式の体験学習の基本的な考え方の紹介を織り交ぜながら、体験・ふりかえり・新たな体験という流れで講座は進行していきました。</p> <p>講師の私も受講生の皆さんの様子を前に、考える機会をたくさんいただきました。体験学習のサイクル（体験→指摘→分析→仮説化→体験）に関する小講義でも、質疑から議論へと展開していきました。具体的には、「ふりかえりが大切なことは分かるが、実際の会議や組織の活動の中で、どのようにふりかえりを入れていくことが可能なのか」ということや、「子どもに対して体験学習を実施するときに、子どもの発達段階に合わせた介入をどのように考えればよいのか」といった日常への適用に関する質問が印象的でした。</p> <p>そうしたことに對する私たちの考えを紹介しながら、集中的なグループ体験であるTグループをベースに発達してきたラボラトリー方式の体験学習では、「今ここ」で共通の体験をしながら、そのふりかえりを共有しつつ、学びを深めていくことが確認されました。</p> <p>また、全体のわかちあいの中では、今回のような体験学習の場で起こってくることと、実際の組織で起こってくることでは、メンバー間の立場の関係が大きく異なること（例、実際は、上司部下、親子、教師生徒関係がある）が影響しているのではないかとということも指摘されました。</p> <p>ラボラトリー方式の体験学習の学びをどのように日常生活に生かしていくか。これは、難しい問いではありますが。中尾氏が述べた通り、「必ずどこかでつながってくる」という思いがあります。また、様々な場面の人間関係で起こってくることをよく見ていく視点を得て、そこに気づいていくことも具体的な変化と言えるかと思えます。全てを劇的に変えるということは、何においても難しいと思います。ただ、見て、気づき、関わりを変えていきながら、少しずつ「よい」と考えられる状態に近づけていく、ということになるかと思っています。</p> <p>私ども講師も受講生の皆さんの力を感じながら、新しく学ぶ時間となりました。皆さんのそれぞれの現場（職場、学校、家庭など）での益々のご活躍を祈念しております。</p>